

## 「子ども発達相談ブログ」システムの提案と評価

### A Childcare Supporting System for Child Nurses: "Kodomo Hattatsu Soudan Blog"

白井由希子\*1 井上 明\*2 新谷公朗\*3 糠野亜紀\*3 芳賀博英\*1 金田重郎\*1  
Yukiko SHIRAI Akira INOUE Kimio SHINTANI Aki KONO Hirohide HAGA Shigeo KANEDA

#### 1. はじめに

近年、「気になる子ども」が増加傾向にあると言われる。そのような子どもに対する保育は、医学や心理学などの専門知識が必要とされるが、保育士がそれらを十分備えている場合は多くない。いかなる性格を持つ子どもに対しても、一人一人をしっかり把握した上で保育を行うことを任務とするが、それを保育士単独で行うことは大変難しく、保育士の負担が深刻化している。この現状をもとに、国の政策として「巡回相談」が導入された。特別支援や心理学などの専門知識を持つ相談員（以後では「保育カウンセラー」と呼ぶ）が、保育士が保育方法を導き出す際のサポートを行う。しかし、未だ保育カウンセラーの人数が少ないため、全ての園には十分な巡回相談が行われていない。

そこで我々は、巡回相談を効果的に行うことで、保育士へのサポートを潤滑に行え、なおかつ子ども一人一人の発達を継続的に最後まで見守れるのではないかと考えた。本論文ではそれを行う手段として、ウェブログを使った「子ども発達相談ブログ」システムを提案する。本システムのプロトタイプは昨年末に完成し、2006年1月からは5月から開始した評価実験に向けて、最終チェックを行ってきた。その後は評価実験の結果をもとに、本システムの保育的効果を検証している。

#### 2. 研究の背景

##### 2.1 現在の子どもの傾向

保育現場では「気になる子ども」への援助方法が課題となっている。気になる子どもとは、学習面でのつまずきはないものの、集団生活になじめない、人間関係をうまく築けないなどの行動面での社会性の問題を抱える子どもを示す。市町村では乳幼児健診を行い、早期発見、早期対応に力を入れている。中度・重度の精神遅滞や自閉症障がいなど、気になる点が目立つ場合は比較的早い段階で発見され、通園施設や親子教室などで適切な療育を受けている。一方、軽度の発達障がいや高機能自閉症など、気になる点あまり突出していない場合は、健診を通過するが多い。そして適切な療育を受けないまま、園の集団生活にて問題が表出する。

以上から、園では多様な子どもが集まっており、一人一人の性格、成長段階を把握した上での保育が大変困難になっていることがわかる。保育士だけでは子どもの適切な保育方法を導き出せず、保育のプロセスを検討する点で、精神的な負担が大きくなっている。

#### 2.2 巡回相談の導入

「気になる子ども」の対応には医学や心理学などの専門知識が不可欠である。しかし現場の保育士は、必ずしもこれらを備えているわけではない。そこで、保育士をサポートする保育カウンセラーによる巡回相談が実施されている園がある。しかし2003年より巡回相談が国の政策から自治体主体となり、気になる子どもに対する園の保育の熱意の度合いによって格差が生じている[1]。

巡回相談で取られている方法は、幼稚園、保育所を順次訪問し、園児を観察、そして気になる点を保育士に伝え、その後の保育は保育士に委ねるという形式である。これは財源による問題で、十分な人数の保育カウンセラーを全ての園に送り出せていないことが要因となって起こっている。この形式では、子ども一人一人の性格、成長段階を踏まえた上での継続的な保育を行うのは難しい。また、保育カウンセラーのアドバイスが消化できず、保育士が取り違えた保育を行いかねない場合もある。

#### 2.3 巡回相談導入後の課題

巡回相談の現状をより具体的に把握するため、ある保育園にてヒアリングを行った。その園では専属の保育カウンセラーが月に2回相談に訪れるが、相談の時間は明確に設定されておらず、園児のお昼寝の時間など、保育士の業務の合間を利用して行われている（この相談をここでは「カンファレンス」と呼ぶ）。その時間は極めて短く、全ての保育士と十分な相談を行うのが困難な状況である。さらに、カンファレンスの内容の記録は、子どもの発達の経過をしっかりと把握でき、その後の保育方法を考えるために重要であるが、日常業務が多忙であり、その作成時間が確保できない状況も明らかになった。ヒアリングを行った結果、明らかになった解決すべき課題は以下の2点である。

- ① カンファレンスの短い時間を有効利用できる方法
- ② 子どもの発達を継続的に最後まで把握可能な方法

#### 3. 「子ども発達相談ブログ」システムの提案

##### 3.1 現在の巡回相談課題

現在の巡回相談において、不十分だと考えられる点を挙げる。

- ① カンファレンス内容が紙の上で記録することで後々の利用に困難が生じること。
- ② カンファレンス内容の記録が作成されていなかったこと。
- ③ 次回のカンファレンスが行われるまでの2週間、保育士と保育カウンセラーとのやり取りが行われていない

\*1同志社大学大学院工学研究科, Graduate School of Engineering, Doshisha University

\*2甲南大学情報教育研究センター, Education and Research Center for Information Science, Konan University

\*3常磐会短期大学幼児教育科, Early Childhood Education, Tokiwakai College

いこと。

ここに挙げた3点が続行された際に考えられる問題を述べる。

まず、カンファレンス内容が紙の上で記録されていると、記録が有効活用されない可能性が高くなる。カンファレンス内容は今後の保育展開を考える上で、大変重要な資料であり、子どもの保育方法は単独で考えるよりも園長、主任、副担任の先生方と議論を重ね、検討することが望ましい。しかしこれが紙の上で記録されていると、その子どもの担当の保育士と園長、もしくは子どもの担当の保育士と園長の間でしか情報が共有されないことがありうる。また、カンファレンス内容を保育カウンセラーへの提出の際にも困難が生じる。カンファレンスの内容は、カンファレンスの終了後に保育士が作成する。「発達相談記録簿」というシートがあり、そこに手書きで記入される。この状態では、その記録簿は郵送もしくはFAXにて保育カウンセラーへ提出しなければならず、保育士から保育カウンセラーの手元に届くまでに丸一日は要してしまう。子どもの様子は刻一刻と変化を見せるため、この期間はなるべく最小に抑えたい。

次に、カンファレンス内容の記録が作成されていないことについては、これは保育士の業務の多忙さから生じる問題である。1クラス20から30名ほどの子どもたちを担当一人、もしくは副担任を含めた二人で保育をすることは大変な労働である。子どものお昼寝の時間や保育時間終了後など、子どもと直接関わらない時間を利用して記録を作成することもできるが、その時間帯は明日以降の保育に必要なものを揃えるなど、また別の業務が待っている。このように、保育業務は大変多忙であり、カンファレンスの記録を作成するために時間を作ることには大変困難であることがわかる。また、もしカンファレンス内容の記録が作成されていない場合、次回のカンファレンスでは前回のカンファレンスの記憶を辿りながらカンファレンスを行わなければならない。これではカンファレンスの時間を無駄になり、正しい情報のもとでカンファレンスが行われない。

最後に、次回のカンファレンスが行われるまでの2週間、保育士と保育カウンセラーとのやり取りが行われていないことについて述べる。先ほども述べたが、子どもの様子は刻一刻と変化を見せる。その変化は何が刺激となってもたらされたものなのかをしっかりと見極めていないと難しい。そのため、特に気になっている子どもに対しては、より一層の対応をし、細かい変化も記録に取る必要がある。記録に取ることで、それをもとにした保育カウンセラーとのやり取りができ、子どもに対する保育にも深さが増すと考える。

### 3.2 提案するシステムについて

これらの背景、問題をもとに、現在の巡回相談を効果的に行えるサポートシステムとして、「子ども発達相談ブログ」システムを提案する。保育士の業務を踏まえた上で開発したカンファレンス内容の記録作成ツールをはじめとし、保育士と保育カウンセラーとの間でやり取りされるカンファレンス内容の利用法を提案する。

## 4. 「子ども発達相談ブログ」システムの開発

### 4.1 システムの構成

システムの開発にあたっては Nucleus[2]というウェブログ作成ツールを用いた。NucleusはPHP、MySQLデータベースの環境があれば誰でも運営可能である。エンドユーザは、インターネットに接続できる環境さえ整っていればいつでも誰でも利用可能である。そのためセキュリティ面にも配慮し、サーバへの接続にはユーザIDとパスワードを設定し、園長、保育士、保育カウンセラーとシステム管理者のみがログイン可能とした。またサーバとクライアントの通信にはhttpsを採用し、子どものデータを保護している。カンファレンス内容の書き込みに関しては、クラスごとにウェブログを用意し、ユーザの権限に応じて書き込み、編集が行える。

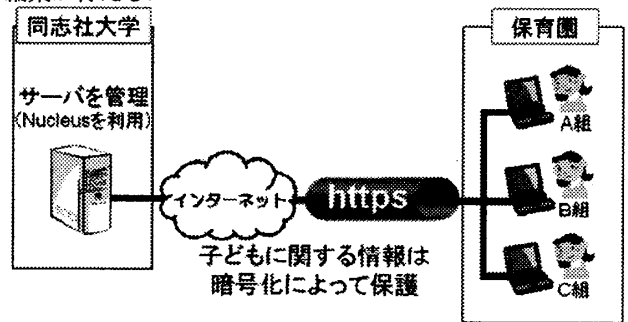


図1. システムの構成

### 4.2 本システムを用いたカンファレンスの手順

図2は本システムを用いたカンファレンスの手順である。以下の①から④を1サイクルとして行われ、次回のカンファレンスに繋がられる仕組みになっている。

- ① 保育カウンセラーが園に訪問し、相談の対象となる子どもの様子を見て、カンファレンスを行う。
- ② 保育士はカンファレンス内容をシステム上で記録し、インターネット上にアップロードする。
- ③ 保育カウンセラーは本システムにカンファレンスの実施日時、相談内容の概要などを記録する。
- ④ システム上にアップロードされた記録は、園長、保育士、保育カウンセラーが閲覧し、必要に応じてコメントを記入する。

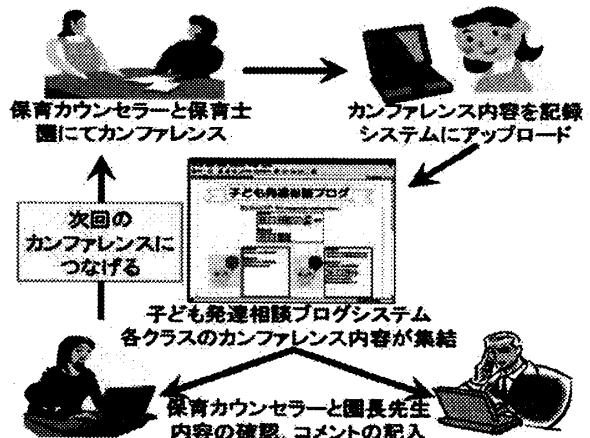


図2. システムを使ったカンファレンスの流れ

### 4.3 本システムの特徴

本システムの特徴は以上の4点である。これらを一つずつ詳細に示す。

**(1) 簡単に記録作成でき、1クリックで提出完了**

従来のカンファレンスで使われていた紙ベースの発達相談記録簿をもとに、カンファレンス内容の入力画面を開発した。それが図3である。多忙な保育現場でも使えるように、簡単にすばやく作成できることを重要視し、項目数は13個に抑えた。13という項目数は数が多い印象を与えるが、これは記録を作成する際にどのような点にポイントを置いて作成すればいいのかを示すために項目を分割した結果である。アップロードには図3の一番下にあるボタンを1度クリックすれば完了する。

**(2) カンファレンス内容を簡単に管理可能**

図4はアップロードされたカンファレンス内容、図5はそれに対して付けられたコメントである。園長、保育カウンセラー、他のクラスの保育士がコメントを付加でき、子どもの様子を園全体で把握し、保育が行える。また、アップロードされたデータは日付をもとにシステム側が管理しているため、保育者の負担は大きくならない。

**(3) 印刷をして紙ベースでも保存可能**

カンファレンス内容は保育記録として紙の状態での保存も重要である。そこで、簡単に印刷画面に移り印刷できるようなインターフェイスにも配慮し、開発した。各記事に印刷画面へのリンクを付加するなどし、工夫した。

**(4) 園全体でデータ共有可能**

システムのトップ画面にて、各クラスのウェブログへのリンクと伝言板ブログへのリンクを設けた。それが図6である。これにより、園の中で特に注意を要する子どもに関する情報を簡単に共有可能となっている。また、新着のカンファレンス内容やコメントが投稿されたときはそれが一目でわかるようになっている。

図3. カンファレンス内容の記録画面

図4. アップロードされたカンファレンス内容 (一部)

図5. カンファレンスに付けられたコメント

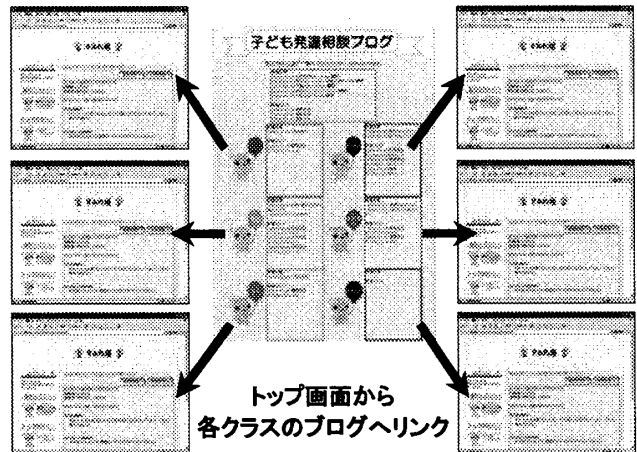


図6. 園全体でのデータ共有の様子

## 5. 運用実験から実運用評価実験に向けて

### 5.1 運用実験を終えて

評価実験に向けて、本システムを実際の保育現場に投入し、保育者らに評価をしていただいた。評価環境の概要は以下の通りである。

- 実験園：A保育園（大阪府），クラス数は6，園児数は全体で約100名
- 対象：園長，保育士9名，保育カウンセラー1名  
本システムを3ヶ月間使っていただき，得られた主な意見は以下の2点である。
- カンファレンス内容の記録画面の入力項目が多い。
- 園全体の気になる子どもの一覧表がほしい。

## 5.2 「子ども発達相談ブログ」システム ver.2

そこで保育カウンセラーのアドバイスをもとに，再度入力項目の選定を行い，入力項目を14個から10個への減少に成功した。そして，園全体の気になる子どもを一覧で見られるリストも開発した。それが図7である。園児の名前とその園児に対して行われたカンファレンスの一覧がリストになって表示される。園長や保育士はこの画面を見れば，園全体で気になる子どもを確認可能である。

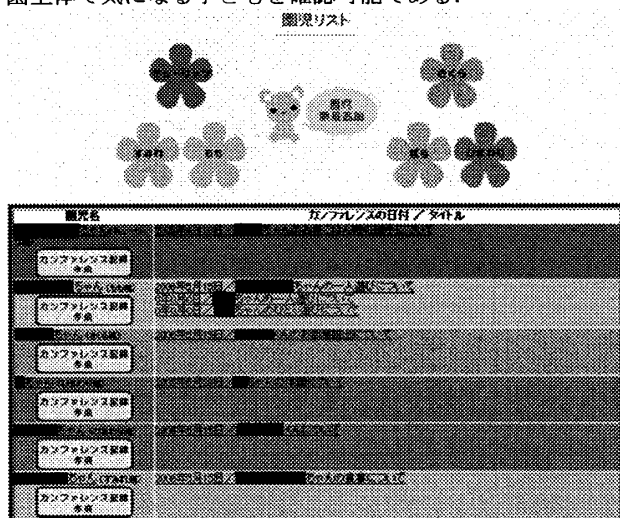


図7. 園児リストの画面

## 5.3 実運用評価実験の開始

運用実験の経験をもとに進化した「子ども発達相談ブログ」システム ver.2 を使うことで，保育にどのような効果が見られるかという評価を行う。この実運用評価実験は2006年5月から開始し，現在も引き続き利用していただいている。2ヶ月ほど利用していただいた後にヒアリングを行った。その結果を以下に示す。

### (1)カンファレンス内容の記録作成・コメント付加頻度

カンファレンス内容の記録は，カンファレンスが行われた園児に対しては必ず作成されている。（作成頻度は100%）カンファレンス実施日以外に，やり取りされたコメントの数は2ヶ月の間で19個であった。

従来の巡回相談で本システムを利用されない場合にはカンファレンス内容が記録されることもほとんどなく，次のカンファレンス実施日までやり取りが行われることもほとんどなかった。しかし，本システムを利用し巡回相談を行うことで，やり取りの回数が増えていることは明らかである。

### (2)カンファレンス内容の投稿後のコメントのやり取りについて

カンファレンス内容によって，コメントのやり取りに行いやすいものと行いにくいものがあるかと考えたが，今の

ところその影響は少ないようである。どのような内容に関しても，文章化することが困難であり，保育カウンセラーは一つのコメントを書くために約20分要している。また一度書いた文章をより見やすく，伝わりやすくするため，何度も書き直していることがわかった。コメントによってやり取りされた内容も，カンファレンス内容と共に文字として残るため，十分注意を払ってやり取りされていることがわかった。園に直接向かい出て話さなければならないということはなくなるが，そのような精神的な面で課題が出てきている。

### (3)本システムの長期利用によるメリット

本システムを利用することで，気になる子どもをチェックした後のフォローが可能となる点が一番のメリットである。巡回相談の頻度が少なく，子どもの様子を一度チェックした後のフォローが最後まで行われぬ場合が多い。市によって行政の体制が異なるため，巡回相談の頻度は年に2回や月に1回など園によって様々である。しかしそのような園に対しても，本システムは子どもの様子を継続的に見守る方法として有効だと考えられる。もちろん，本システムだけで巡回相談をカバーすることは難しいが，一度チェックした後のやり取りを行う手段としては大変有効である。

## 6. 今後の課題

先ほど述べたように，本システムだけで巡回相談の全てをカバーすることは難しい。だが，子どもの写真，動画を含めたやり取りが行えるようになれば，その可能性も広がると考える。子どもの様子をチェックするには直接，園に訪問することが第一だが，遠隔地にある園など巡回相談の回数が少ない園に対しては，写真，動画の利用も含めた本システムは効果が期待できると考える。

## 7. まとめ

本システムを使った評価実験を行い，その様子を調べてきた結果，多様な子どもに対応する保育士の現状は大変深刻化していることが改めた明確になった。一人一人の子どもの特性を踏まえて保育を行うだけではなく，子どもと接する以外の場面においても，様々な仕事を抱えている。例えば，連絡帳の作成，次の日に必要なものの準備，朝と夕方には保護者との対応もある。実際に保育園に行き，保育士の業務の様子を拝見すると，本システムの必要性が大変高く感じられた。

実験園では本年度に入ってから，本システムを使ったカンファレンス内容の記録が，業務の一つに位置付けられた。その理由を園長に伺ったところ，3ヶ月間の運用実験を経て，各クラスの保育士が抱えている気になる子どもの様子を本システムで管理し，園全体で共有することで，保育士の現状も把握可能になったと園長は話している。また保育士の現状を知ることによって，園全体における指示が出しやすくなり，保育士の精神的負担を園に関わる職員全体でカバーすることが可能になると予想し，その実現を期待している。

## 参考文献

- [1]近藤直子：障害児保育，全障研出版部，2005
- [2]Nucleus CMS Japan <http://japan.nucleuscms.org/>